

学校番号

T0206

## 令和2年度 芸術科（美術）

教科	芸術・美術	科目	美術 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	高校美術 1 （日本文教出版）						
副教材等	なし						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・ 絵画や版画、彫刻やデザインなどの美術の基本的な内容と鑑賞の分野について学習します。
- ・ 鉛筆や色鉛筆、カラーマーカーや水彩絵の具などの基本画材の活用技術を学ぶとともに、一人ひとりの感じ方、考え方も大切にしながら、創造的な表現の喜びを味わいましょう。
- ・ 他の人の作品や、美術史的に重要な作品などを鑑賞しながら、自分の見方だけでなく、他の人の見方も知ることで、美術に対する理解を深めていきましょう。

## 2 学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.美術への 関心・意欲・態度	b.発想や構想の能力	c.創造的な技能	d.鑑賞の能力
観点の趣旨	多様な表現方法を経験することにより美術の創造活動の喜びを味わい、美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現の意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 ワークシート 制作途中の作品	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品	練習課題 完成作品	ワークシート 鑑賞活動や発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	絵画・デザイン	①はじめに	◎オリエンテーション	○				a: 美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を持って取り組もうとしている。	制作の様子
		②鉛筆	◎「鉛筆での濃淡表現」 ※筆圧や密度を調整し、6段階を表現  ◎「直線による構成」 ※縦横各8本の直線により画面を分割し濃淡による表現  ◎「そっくりに描く」 ※ピカソの泣く女を鉛筆で模写	○				a: 説明に対して、熱心に耳を傾け、鉛筆による表現方法に関心を持ち、作品制作に意欲的に取り組もうとしている。  b: 課題の条件を理解し、その制約の中でイメージを膨らませ、豊かな発想と直線の組み合わせによる確かな構成力を発揮している。  c: 鉛筆画材の特性に応じた表現方法を身に付け、それを自分なりに組み合わせて活用する事でオリジナリティ豊かな作品となるよう、工夫している。  d: 制作者の意図や鉛筆表現の工夫を理解し、作品の良さを感じ取っている。	制作の様子 ワークシート 練習課題 制作途中の作品 完成作品
		③色鉛筆	◎「色鉛筆による表現」 ※筆圧や密度、混色を調整し調色練習  ※セザンヌの静物画を色鉛筆で模写	○		○		a: 説明に対して、熱心に耳を傾け、色鉛筆画材による表現方法に関心を持ち、作品制作に意欲的に取り組もうとしている。  b: 原画となる油絵作品をよく観察し、その美しさを感じ取りながら、創造的な構想を練っている。  c: 課題の条件を理解し、色鉛筆による表現方法を身に付けている。  d: 制作者の意図や表現の工夫を理解し、作品の良さを感じ取っている。	制作の様子 ワークシート 練習課題 制作途中の作品 完成作品
		④カラーペン	◎「カラーペンによる表現」  ※ハッチング法による着色とクロスハッチング法による混色の練習  ※直線3本、曲線1本、円2個による構成を行い、カラーペンで着色	○		○		a: 説明に対して、熱心に耳を傾け、カラーペンによる表現方法に関心を持ち、作品制作に意欲的に取り組もうとしている。  b: 課題の条件を理解し、その制約の中でイメージを膨らませ、豊かな発想と確かな構成力を発揮している。  c: カラーペンの特性に応じた表現方法を身に付け、それを自分なりに組み合わせて活用する事でオリジナリティ豊かな作品となるよう、工夫している。  d: 制作者の意図や表現の工夫を理解し、作品の良さを感じ取っている。	制作の様子 ワークシート 練習課題 制作途中の作品 完成作品 鑑賞での発言内容
		⑤水彩絵の具	◎「文字の構成」  ※水彩絵の具の塗方練習  ※水彩絵の具の混色練習  ※明朝体ひらがなの練習  ※文字「ひらがな」による構成・ことばからイメージを広げ、配色に工夫する。	○		○		a: 説明に対して、熱心に耳を傾け、水彩絵の具による表現方法に関心を持ち、作品制作に意欲的に取り組もうとしている。  b: 課題の条件を理解し、その制約の中でイメージを膨らませ、豊かな発想とたしかな構成力を発揮している。また、明朝体の持つ美しさを感じ取りながら構想を広げている。  c: 水彩絵の具基の基本的な使用方法を身に付け、塗り斑やみ出しなく美しく仕上げようと努めている。また、その特性に応じた表現方法を身に付け、それを自分なりに組み合わせて活用する事でオリジナリティ豊かな作品となるよう、工夫している。  d: 制作者の意図や表現の工夫を理解し、作品の良さを感じ取っている。	制作の様子 ワークシート 練習課題 制作途中の作品 完成作品 鑑賞での発言内容

後期	絵画・版画・彫刻	①はじめに	◎オリエンテーション ・前期作品の返却 ・後期に向けて	○				a: 美術の多様な表現に関心を持ち、前期の学習を踏まえて後期の学習に意欲を持って取り組もうとしている。	制作の様子
		②木版	◎「連続模様による『紙袋』の装飾」  ※連続する模様となる基本図形を考える。  ※基本図形を木版に彫り起こす  ※基本図形の木版を紙袋に刷ることで、装飾を施す。	○	○			a: 説明に対して、熱心に耳を傾け、基本図形を連続させる事で新しい図柄が生まれることに関心を持ち、作品制作に意欲的に取り組もうとしている。  b: 課題の条件を理解し、基本図形を連続させる事をイメージして美しい装飾を構想している。また、配色に工夫している。  c: 彫刻刀の使い方を身に付け、基本図形を正確に木版として仕上げようと努力している。また、完成した木版を活用し、紙袋に美しく定着させようと努めている。  d: 制作者の意図や表現の工夫を理解し、作品の良さを感じ取っている。	制作の様子 ワークシート 練習課題 制作途中の作品 完成作品
		③墨および水彩絵の具	◎「絵手紙の制作」  ※描画の基本練習  ※着色の基本練習  ※添える言葉  ※「葉っぱ」をモチーフにして  ※「みかん」をモチーフにして  ※「さかな」をモチーフにして	○		○		a: 説明に対して、熱心に耳を傾け、墨や水性絵の具による絵手紙の表現方法に関心を持ち、作品制作に意欲的に取り組もうとしている。  b: 絵手紙の表現方法を理解し、その特徴の中でイメージを膨らませ、言葉やモチーフから豊かな発想を行っている。また、文字と絵のバランスに美しさを感じ取りながら構想を広げている。  c: 墨や水性絵の具による「にじみやぼかし、掠れ等」、絵手紙の描画・着色表現技法を身に付け、美しく仕上げようと努力している。また、モチーフや見本となる作例をよく観察し、その形や雰囲気を感じ取りながらオリジナリティ豊かな作品となるよう、工夫している。  d: 制作者の意図や表現の工夫を理解し、絵手紙の良さを感じ取っている。	制作の様子 ワークシート 練習課題 制作途中の作品 完成作品
		④パルサ木片	◎「そっくりに彫る」  ※パブリカをモチーフに写実的にデッサンする。  ※パブリカをモチーフに写実的に彫刻する。	○	○			a: 身の周りにある物の形をよく観察し、作品として表現することに意欲的に取り組もうとしている。  b: パブリカの形体から美しさを感じ取り、立体把握を構想している。  c: 彫刻刀を用いてパブリカの形体や質感を立体的に表現する為の工夫を凝らしている。  d: 制作者の表現の工夫や彫りの努力を理解し、作品の良さを感じ取っている。	制作の様子 ワークシート 練習課題 制作途中の作品 完成作品 鑑賞での発言内容

※ 表中の観点について

a：美術への関心・意欲・態度

b：発想や構想の能力

c：創造的な技能

d：鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行なう観点（もしくは重み付けを行なう観点）について、優先度の高いものに○印を付けている。

学校番号

T 0 2 0 6

## 令和2年度 芸術科（美術）

教科	芸術・美術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	年次	3～4年次
使用教科書	高校美術2（日本文教出版社）						
副教材等							

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・ 絵画や彫刻、デザインなどの美術の基本的な内容と鑑賞の分野について学習します。
- ・ 基礎的な技術を学ぶとともに、一人ひとり違う感じ方、考え方も大切にしながら、創造的な表現の喜びを味わいましょう。
- ・ 他の人の作品や、美術史的に重要な作品なども鑑賞しながら、自分の見方だけでなく、他の人の見方も知ることで、美術に対する理解を深めていきましょう。

## 2 学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.美術への 関心・意欲・態度	b.発想や構想の能力	c.創造的な技能	d.鑑賞の能力
観点の 趣旨	多様な表現方法を経験することにより美術の創造活動の喜びを味わい、美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現の意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価 方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループ ワークの様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	デザイン	わたしって こんな人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自己紹介カード」を制作(ペンによるモノクロ作品)</li> </ul>	◎	○		○	<p>a: 自己紹介の作品をつくることにより、意欲的に取り組めた。</p> <p>b: 楽しい作品ができるように 表現の仕方を工夫した。</p> <p>d: 作品を冊子の状態にし、相互に感想を述べ合うことで全員の作品を味わうことができた。</p>	<p>観察</p> <p>作品の具合</p> <p>鑑賞活動の様子や発言内容</p>
		わたしの色、あなたの色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩構成</li> <li>幾何形体とアルファベットによる構成</li> <li>配色カードを使用し、様々な色をつくる</li> </ul>		◎	○	○	<p>b: 色の響きあいを感じ取り、配色を考えて表現できた。</p> <p>c: 配色カードにあう絵の具の使い方、混色の技法を身につけた。</p> <p>d: 出来上がった作品を全員で見ながら、感じたことを発表できた。</p>	<p>ワークシート</p> <p>観察</p> <p>作品の具合</p> <p>鑑賞活動の様子や発言内容</p>
後期	絵画	自画像 「有名作家さんに描いてもらいました」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有名な画家による人物画を鑑賞し、その特徴を考える</li> <li>その作風に似せて自画像を描き水性絵の具で着彩する</li> </ul>					<p>a: 多様な表現の仕方があることを知り、その特徴を作品に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>c: 色の作り方や画面上での配置、筆づかいなどを身につけた。</p> <p>d: 時代や地域あるいは画家それぞれによって、多様な表現があることを知り、理解を深めた。</p>	<p>観察</p> <p>作品の具合</p> <p>鑑賞活動の様子や発言内容</p>
		パブリカをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デッサンする</li> <li>・ラフォルムを用いて彫刻する</li> <li>・相互鑑賞</li> </ul>	○		◎	○	<p>a: 身の周りにある物の形を観察し、作品として表現することに意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>c: 彫刻刀を用いてパブリカの形体や質感を立体的に表現するための工夫をこらしている。</p> <p>d: お互いの作品のよさや表現の工夫を感じ取り、自分の作品についての理解を深めている。</p>	<p>ワークシート</p> <p>観察</p> <p>作品の具合</p> <p>鑑賞活動の様子や発言内容</p>

※ 表中の観点について

a：美術への関心・意欲・態度

b：発想や構想の能力

c：創造的な技能

d：鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行なう観点（もしくは重み付けを行なう観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。

学校番号

T 0 2 0 6

## 令和2年度 芸術科（書道）

教科	芸術・書道	科目	書道 I	単位数	2 単位	年次	3～4 年次
使用教科書	書道 I （東京書籍）						
副教材等	なし						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・小学校、中学校の授業で学んだ書写と、高等学校で学ぶ芸術としての書道との違いを理解しましょう。
- ・漢字作品は楷書、行書を中心に、仮名作品は連綿を主に、様々な作品を臨書する中で、筆使いや書法を学び、創作作品へと発展させていきます。
- ・多くの作品を鑑賞し、書への関心を深め、書を愛する心を育てます。

## 2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.書への 関心・意欲・態度	b.書表現の構想と 工夫	c.創造的な書表現の 技能	d.鑑賞の能力
観点の 趣旨	書の伝統と文化に興味関心をもち、「書く」、「観る」楽しさを味わい、主体的に鑑賞や作品制作に取り組もうとする。	書の趣、美しさを感じ取る中から、感性を磨き、自らの構想に基づき表現を工夫している。	基礎的な能力を応用し、効果的な表現技能を身につけ創造的な書表現がなされている。	日常生活における書の効用と書の伝統文化を理解し、創造的に書の価値、美しさを味わっている。
評価 方法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。



## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期		書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科書写と芸術科書道</li> <li>・姿勢、執筆法について</li> <li>・用具、用材、運筆法による表</li> <li>現法の比較</li> <li>・書体の変遷</li> </ul>	◎	○	○	○	a:書写と書道の類似点、相違点、書体の変遷に興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:正しい姿勢、執筆法が身についている。 c: 書写の基礎、基本を踏まえ表現を工夫している。 d:書体の変遷を理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
		漢字の書（楷書）	楷書の成立と唐の四大家 <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧陽詢 九成宮醴泉銘</li> <li>・虞世南 孔子廟堂碑</li> <li>・褚遂良 雁塔聖教序</li> <li>・顔真卿 自書告身</li> </ul> その他の代表的楷書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛橛造像記</li> <li>・鄭道昭 鄭儀下碑</li> </ul>	◎	○	○	○	a:古典を臨書する意義を理解している。 b:各古典の書風と字形の特徴を把握できている。 c:各古典の用筆法、運筆法を理解し表現できている。 d:楷書の成立を理解し、様々な書風が鑑賞できたか。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
後期		漢字の書（行書）	行書の成立と中国と日本の書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・王羲之 蘭亭序</li> <li>・顔真卿 争坐位文稿</li> <li>・空海 風信帖</li> </ul>	○	◎	○	○	a:楷書と行書の相違点を理解できている。 b:行書の特徴に基づいて用筆、運筆、結体ができている。 c:中国および日本の行書の古典作品の臨書をし、それぞれの異なった表現法を理解している。 d:王羲之、空海の概略を理解できている。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

後 期	篆 刻	落款と篆刻 ・書作品に於ける落款と落款の役割と用法 ・篆書について ・落款印の種類 ・制作の手順 ・作品鑑賞	○	◎	○	◎	a:書作品を鑑賞し、落款の入れ方を理解できている。 b:作品における落款の役割と効果を理解できている。 c:落款における印の使い方を理解できている。 d:篆刻の制作を理解し、落款印を彫ることができた。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※ 表中の観点について

- a：書への関心・意欲・態度
- b：書表現の構想と工夫
- c：創造的な書表現の技能
- d：鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行なう観点（もしくは重み付けを行なう観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。

## 令和2年度 音楽科

教科	音楽	科目	音楽理論	単位数	2単位	年次	4年次
使用教科書							
副教材等	自作教材						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「楽譜の成り立ち」「作曲の方法」「音を出す楽しさ」「音楽の役割」の4分野について幅広く、年間を通して学習します。

・学習の到達度は、授業で配布するワークシートや実技テストを中心に評価します。

・音楽理論の学習は、歌唱や楽器の演奏による表現活動を深める為に、基礎となる音楽の理論を学びます。

様々な音楽活動を行う上で少しでも役立つ事を願っています。

## 2 学習の到達目標

音楽の基礎である「理論や楽典の知識」を学び、音楽への理解を一層深めると共に、さまざまな音楽活動を行う上で、役立てるようにする。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.音楽への 関心・意欲・態度	b.音楽表現の 創意工夫	c.音楽表現の技能	d.鑑賞の能力
観点の 趣旨	楽典の持つ理論や体系に関心を持ち、音楽理論の学習に主体的に取り組もうとしている。	楽譜の意味を理解し、作曲の中でどのような効果を生み出す構成になるかを工夫し、表現している。	作曲の基本的な方法や理論を踏まえた作品制作を行う事が出来る。	楽曲の特色を理解し、それらが生み出された雰囲気や楽譜から感じ取ることが出来る。
評価 方法	観察 ワークシート	観察 ワークシート 作品 歌唱	観察 ワークシート 作品	観察 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。  
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	楽典	楽典の構成要素	音階や旋法 「スカボ ー・フェア」  音符とリズム 「ピアノ・ソ ナタ」  調合と主音  楽譜	◎	○	○	○	a: 楽典の持つ理論や体系に関心を持ち、音楽理論の学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 楽譜の意味を理解し、作曲の中でどのような効果を生み出す構成になるかを工夫し、表現している。 c: 作曲の基本的な方法や理論を踏まえた作品制作を行う事が出来る。 d: 楽曲の特色を理解し、それらが生み出された雰囲気を楽譜から感じ取ることが出来る。	観察 ワークシート 作品
後期	楽典	楽譜の理解	歌唱 「少年時代」  和音  コード  形式  作曲と演奏	○	◎		○	a: 楽典の持つ理論や体系に関心を持ち、音楽理論を踏まえた歌唱や作曲に主体的に取り組もうとしている。 b: 楽譜の意味を理解し、歌唱や作曲の中でどのような効果を生み出すかを工夫し、表現している。 d: 楽譜の特色を理解し、それらが生み出された雰囲気を感じ取ることが出来る。	観察 ワークシート 歌唱実技

※ 表中の観点について

a：音楽への関心・意欲・態度

b：音楽的な感受や表現の工夫

c：表現の技能

d：鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行なう観点（もしくは重み付けを行なう観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。

## 令和2年度 音楽科

教科	音楽	科目	器楽	単位数	2単位	年次	3～4年次
使用教科書							
副教材等	自作教材						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・様々な楽器を演奏します。「音を出す楽しさ」「みんなで合奏する喜び」について幅広く、年間を通して学習します。
- ・学習の到達度は、授業で配布するワークシートや実技テストを中心に評価します。
- ・クラスの仲間とともに実際に楽器を演奏し、「音楽」を作ることで、「演奏」に対する考えが深まっていきます。さまざまな楽器に触れ、ともに創り、みなさんの感性や心が豊かなものになることを願っています。

## 2 学習の到達目標

器楽の演奏に関する知識や技術を習得させ、音楽性豊かな表現力を育む。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.音楽への 関心・意欲・態度	b.音楽表現の 創意工夫	c.音楽表現の技能	d.鑑賞の能力
観点の 趣旨	各楽器が奏でる要素に関心を持ち、器楽演奏の学習に主体的に取り組もうとしている。	各楽器の特徴を理解し、合奏の中でどのように演奏するかについて、工夫し表現している。	各楽器の基本的な演奏方法を身に付けている	各楽器の特色を理解し、それらが生み出す雰囲気を楽しむことができる。
評価 方法	観察 ワークシート	観察 演奏	観察 演奏	観察 鑑賞レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	演奏・鑑賞	アルトリコーダー	アルトリコーダーの独奏方法を学ぶ	◎	○	○		a:アルトリコーダーの音色に興味を持ち、イメージを高めながら演奏している。 b:音色を形作っている要素を感受しながらどのように演奏するかについての思いを持っている。 c:適切な運指とタンギングにより、リコーダーの音色を作り出している。	観察 ワークシート 実技 鑑賞レポート
		伝統音楽の鑑賞	わが国の伝統音楽・伝等楽器について学ぶ	◎			○	a:わが国の音楽の音色や楽器に興味を持ち、主体的に鑑賞しようとしている d:わが国の音楽について、それぞれの音楽を形作っている要素を知覚し、それが生み出す雰囲気を感じている。	
後期	演奏・鑑賞		リコーダーのアンサンブルを学ぶ	○	◎	○		a:アルトリコーダーの重奏に興味を持ち、イメージを高めながら演奏している。 b:音色を形作っている要素を感受しながらどのように重奏するかについての思いを持っている。 c:効果的な重奏となるようリコーダーの音色を作り出している。	観察 ワークシート 実技 鑑賞レポート
			クラシックギターの演奏を学ぶ	○	◎	○	○		

※ 表中の観点について

a：音楽への関心・意欲・態度

b：音楽的な感受や表現の工夫

c：表現の技能

d：鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行なう観点（もしくは重み付けを行なう観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。



## 令和2年度 美術科

教科	美術	科目	クラフトデザイン	単位数	2単位	年次	2～4年次
使用教科書							
副教材等	自作教材						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・紙や布・木材や樹脂などのクラフトの基本的な素材を用いて工芸的な作品を制作する学習を行います。
- ・基礎的な技術を学ぶとともに、一人ひとりの感じ方、考え方も大切にします。
- ・他の人の作品や、伝統工芸作品なども鑑賞しながら、クラフトに対する理解を深めていきます。
- ・生活を彩る作品を作りましょう。

## 2 学習の到達目標

クラフトに関する幅広い制作活動を通じて、様々な素材を体験し生涯にわたってクラフトを愛好する心情を育む。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.クラフトへの 関心・意欲・態度	b.発想や構想の能力	c.創造的な技能	d.鑑賞の能力
観点的 趣旨	多様な素材を経験することによりクラフトでの創造活動への関心と意欲を高める事ができた。	想像力を働かせて、素材から感じ取ったことや考えたことを大切にしながら制作する事ができた。	創造的なクラフトの制作をするために必要な技能を身に付けている。	クラフトや立体デザインなどの表現の工夫や工芸文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価 方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	観察 作品	ワークシート レポートの内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (素材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	平面クラフト	紙	ペーパーアートによる 絵本作り					a:紙や布について関心を持ち意欲的に取り組めた b:想像力を働かせ、紙や布から感じ取った事を大切にしながら制作できた。 c:紙や布を加工するために必要な技術を身に付けた。 d:自他の作品について表現の工夫を理解してその良さを理解した。	観察 作品 鑑賞活動の様子や発言内容
		布	染めによる 暖簾作り	◎	○	○	○		
後期	立体クラフト	木材	桂材の彫刻による表札作り					a:木材や樹脂について関心を持ち意欲的に取り組めた b:想像力を働かせ、木材や布樹脂から感じ取った事を大切にしながら制作できた。 c:木材や樹脂を加工するために必要な技術を身に付けた。 d:自他の作品について表現の工夫を理解してその良さを理解した。	観察 作品 鑑賞活動の様子や発言内容
		樹脂	エポキシ樹脂によるペーパーウェイト	○	◎	○	○		

※ 表中の観点について

a：クラフトへの関心・意欲・態度

b：発想や構想の能力

c：創造的な技能

d：鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行なう観点（もしくは重み付けを行なう観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。

学校番号

T0206

## 令和2年度 芸術科（音楽）

教科	芸術・音楽	科目	音楽 I	単位数	2単位	年次	2～4年次
使用教科書	MOUSA 1 （教育芸術出版社）						
副教材等	なし						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歌うこと」「楽器の演奏」「音楽づくり」「音楽の鑑賞」の4分野について幅広く、年間を通して学習します。

・学習の到達度は、授業で配布するワークシートや実技テストを中心に評価します。

・音楽の学習は、クラスの仲間とともに実際に歌ったり楽器をやってみたり、考えたりすることで深まっていきます。さまざまな音楽に触れ、ともに創り、みなさんの感性や心が豊かなものになることを願っています。

## 2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.音楽への 関心・意欲・態度	b.音楽表現の 創意工夫	c.音楽表現の技能	d.鑑賞の能力
観点の 趣旨	音楽や音楽をかたち づいている要素に 関心をもち、歌唱、 器楽、創作、鑑賞の 学習に主体的に取り 組もうとする。	音楽をかたちづっ ている要素を知覚 し、それらが生み出 す働きを感受して、 歌唱、器楽、創作の 音楽表現を工夫し、 どのように演奏する かについて思いや意 図をもっている。	創意工夫を生かした 音楽表現をするため に必要な歌唱、器楽、 創作の技能を身に付 けている。	音楽が生み出す雰 囲気を感じて、その 味わいを他者に伝え ることができてい る。
評価 方法	観察 ワークシート	観察 ワークシート 歌唱や演奏の実技	演奏の聴取 歌唱や演奏の実技	観察 ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	歌唱	音楽の要素と組み立て	【歌唱】 校歌 翼をください 野ばら メリーさんの羊 この道 故郷	◎	○	○		a: 自然な声で、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: それぞれの音楽を形づくっている要素を知覚・感受しながら、どのように演奏するかについて、思いや意図をもっている。 c: 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取 歌唱の実技
後期	歌唱・演奏	言葉と音楽	【歌唱】・【演奏】 合唱曲 サトウキビ畑 海へ来なさい	○	◎	○		a: パートの重なりやアンサンブルに関心をもち、イメージをもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 b: パートの重なりを知覚し、それが生み出す雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて、思いや意図をもっている。 c: 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取 歌唱の実技 演奏の実技
後期	鑑賞	物語と音楽	【鑑賞】 サウンド・オブ・ミュージック	○			◎	a: それぞれの音楽や心情に関心をもち、主体的に鑑賞しようとしている。 d: 音楽が演奏されているシーンや心情を知覚し、それが生み出す雰囲気を感じながら、その味わいを他者に伝えている。	観察 ワークシート

※ 表中の観点について

a：音楽への関心・意欲・態度

b：音楽的な感受や表現の工夫

c：表現の技能

d：鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行なう観点（もしくは重み付けを行なう観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。